

株式会社アトス・インターナショナル(ミュージック・エア)  
番組審議委員会 議事録

1. 日時：2023年7月6日(木) 15:00～15:35

2. 場所：株式会社アトス・インターナショナル本社 会議室(オンライン形式)

3. 出席者：(敬称略)

○番組審議委員

番組審議委員長 齋藤 純一(株式会社IPGネットワーク 監査役)

番組審議委員 五十嵐 弘之(日本コロムビア株式会社 取締役CFO、株式会社ドリーミュージック  
取締役)

番組審議委員 谷口 元(株式会社東京谷口総研 代表取締役社長)

番組審議委員 佐藤 毅(ゼプロユナイテッド株式会社 代表取締役社長)

番組審議委員 松山 梢(映画ライター)

番組審議委員 山崎 哲央(元株式会社テレビ神奈川プロデューサー、元株式会社tvkコミュニケーションズ  
取締役、元関内ホール館長)

番組審議委員 望月 秀城(株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント 経営企画グループ  
シニア アドバイザー)

番組審議委員 田中 良典(一般財団法人ヤマハ音楽振興会 事業企画開発部 普及企画グループ  
シニアパートナー) (書面参加)

○放送事業者：(敬称略)

株式会社シーエス・ワンテン

代表取締役社長 福田 泉

編成局長 中口 裕丈

○番組供給者

株式会社アトス・インターナショナル

堀口 昭典(代表取締役社長)

城水 千明(代表取締役)

井上 靖(執行役員)

木村 俊央(メディア企画部 メディア・グループ ミュージック・エア担当プロデューサー)

4. 放送事業者から説明

株式会社シーエス・ワンテンより110度CSの概況について

5. 報告事項

①ミュージック・エアの編成方針・内容

昨年から今年にかけては、レディー・ガガ、ブルーノ・マーズ、キッス、ガンズアンドローゼス、エリック・クラプトン、ボブ・ディランなど大物の来日に合わせたアーティストの特集を放送。

視聴者層については、スカパーの視聴データを基にしたここ1年のデータで、50代の男女が最も多く、50代男性、50代女性の順。

音楽ジャンルの割合は、洋楽、ロック・ポップス75%、海外ジャズ10%、その他オリジナル番組等で15%。

洋楽ロック・ポップスの中での年代の割合としては、70年代と80年代が1番割合が多く、それぞれ全体の17%になっている。

視聴者の反響が大きいアーティストを中心に編成しており、必然的に視聴者層が1番多い50代男女が聞いていた70年、80年代のボリュームが多くなっている。

今後のミュージック・エアの特集予定としては、8月にエルヴィス・プレスリーの命日に合わせて日本初放送のドキュメンタリー、9月にジミ・ヘンドリクスの命日に合わせて日本発放送ドキュメンタリー、12月はジョン・レノンの命日に合わせて、日本発放送ドキュメンタリーを放送予定。

## 6. 番組内容審議

### <番組概要説明>

番組名：「偉大なるソングライターたち：デイヴィッド・フォスター」

伝説的なソングライターの創作プロセスとインスピレーションに迫るシリーズ番組「偉大なるソングライターたち」の中から、シカゴ、セリーヌ・ディオン、マイケル・ジャクソン等数々のアーティストの楽曲を手掛け、16のグラミー賞獲得を誇る世界最高峰のプロデューサー、デイヴィッド・フォスターの登場回をピックアップ。子供時代、作曲を始めた経緯、プロになった経緯、チャック・ベリーやボ・ディドリーのバックを務めた10代、スタジオ・ミュージシャンからプロデューサーになった経緯、作曲方法、シカゴ、ホイットニー・ヒューストン、セリーヌ・ディオン、マイケル・ジャクソン等との制作、『セント・エルモス・ファイアー』等の映画音楽制作、ブロードウェイ・ミュージカルなど現在の活動に迫る。

45分番組 制作年：2021年（初回放送日：2022年8月20日／日本初放送）

### <委員からの意見>

◆数々のヒット曲を輩出したデビット・フォスターの歴史+現在をインタビューで綴った素晴らしい番組で、内容もとてもわかり易く、本人の肉声と演奏で伝えられていて、大変興味深く拝見させていただいた。

時間も45分の中に裏話も含めて十分に盛り込まれていると思う。この様な番組の場合、実際にリリースした音源や映像が使用されるケースも有るが、今回の様な自身でピアノや歌で披露されていることが逆に伝わると感じた。

ただ、曲を披露する際に、CDジャケットぐらいは映像に出ていてもよかった様に思った。（多分権利の関係で難しいのかもしれないが）

デビット自身は作曲家と言うよりは、共作者との化学反応で音楽を制作する音楽プロデューサーであることも映像から十分に伝わってきた。

デビット・フォスター好きなファンにはとても魅力的な番組だと思う。

番組中で歌うデビットの34歳年下の妻(キャサリン)は、綺麗で歌も上手い。デビットが歌うより曲の良さが更に伝わってきて出演されたのは良かったと思った。

◆今までこの審議委員会で見た番組の中でも、最も裏方的というか、音楽・レコードを制作する人たちに1番馴染み深いところを、プロデューサーの話で、ずっと楽しく見させてもらった。

デイヴィッド・フォスターは、私がレコード会社に入ってから、周りでもレコードを作る上でもものすごくリファレンスをするプロデューサーで、「デイヴィッド・フォスター風といえばこんな感じでアレンジできるよね。」というように、ある意味すごく時代を画したプロデューサーだと思う。

聞いていておもしろかったのは、まさかデイヴィッド・フォスターとボ・ディドリが同じところで名前が出てくというのは、すごく衝撃的でおもしろかった。

音楽好きにとっては、たまらない素晴らしい番組だったと思う。

◆私も楽しく拝見させていただいた。素晴らしい番組だなと思えたのは、また番組としても楽しく見れたのは、素晴らしいプロデューサーをうまく伝えられているからなのだと思う。

1つだけ気になったのが「デヴィッド」の記載方法で、ビデオの中の字幕は「デイヴィッド」と書いてあるが、事前視聴用ビデオのファイル名はイが入っておらず、「デヴィッド」となっていた。

他の商品等がどうなっているのか調べたが、結構混ざり合っていて、「デイヴィッド」と書いてあったり、「デヴィッド」であったり、例えば古い商品だと、ウ点ではなくて、ヒ点の「デビット」になっていたりと、多分人によって、どの時代にこの言葉を知ったかによって記載が変わるのかなとは思っている。

事前視聴用ビデオのファイル名と(番組)中の字幕が違うというのは、ビデオを作られたか編集された方とそれを送っていただいたご担当が違うからズレが出たのかなと思うが、将来的には事故に繋がるかなというような気がしたので、あえて苦言を呈させていただいた。

◆ストレートなインタビュー番組だからこそ、本当の本人の言葉にリアリティがあるし、ちょっとした瞬間に垣間見える人間らしいチャーミングさも伝わるし、本当にアットホームでいい番組だなと思った。

奥さんのキャサリン・マクフィーが歌ってくれるのも本当に贅沢だなとは思っていたが、彼が手掛けた楽曲を番組を見ながらYouTubeで検索してみたりもしてしまったので、この番組に絡めて、もし可能であれば彼が関わったミュージシャンの楽曲をPV等で見られたら、より興味が広がっていくかなと思った。

◆私もすごくおもしろく拝見した。やはり同じようにミュージック・クリップとか、ライブ・クリップ等が挟み込まれた方が、より一般的に分かりやすかったかなとは思っている。多分権利クリアの問題とかあるのだろうけれど。

デイヴィッド・フォスターは、時代を代表するプロデューサーなので、竹内まりや、尾崎亜美、松田聖子など結構日本人のプロデュースもしているのだから、日本人の番組があってもおもしろいかなという風に思った。

デイヴィッド・フォスターが「ローリングストーン」に酷評されたという場面があったが、人によっては、「ローリング・ストーンズ」と勘違いする人もいるかなと思ったので、「ローリングストーン誌」とか雑誌名だとわかりやすくした方がいいと思った。

音色とコード進行で分かるという代表的なアーティストなので、非常におもしろい番組だった。

◆私はこのところAI、人工知能による音楽著作物の学習や生成に関する議論に関わる機会が多い中でこの番組を見たので、逆に斬新なものを見た感覚に襲われた。

番組の中にあるような偶然と必然の出会いとか才能と才能のぶつかり合い、それが時代とシンクロして新たな時代を作っていくようなもの、AI生成の際の議論には全く出てこない、真逆なダイナミックな楽曲の誕生から原盤が制作されるまでの流れとか、証言がとても斬新なものに感じられた。

今後のAIに絡めて言うと、AIとソングライターとのクリエイティブはどのように両立してくかまだわからないところもあるが、この番組で語られたようないわゆる人間臭い、裏話を秘めての作品がこれからも永遠に残っていくワールドはあるんだなというような確信を持つような番組だった。

皆さんからも話が出ていたが、実際のライブ映像以外に原盤の演奏とか実際のライブ映像等があると、もう少しわかりやすく時代性も感じられてよかったのかなと思う。

ぜひこれからも、このようなレジェンドによる作品作りのワールドとか世界観を視聴者の方々にもっと伝えていただければなと思った。

◆冒頭から非常に興味深く番組に引き込まれた。その理由は、番組構成のスタイルが正にストレートなインタビュー番組で、不必要なもの、説明的なものが排除されていて、非常にシンプルなシチュエーションで作られているからだと思う。

傍らにピアノがあって、デイヴィッド・フォスターが答えていく内容を、ピアノをその場で弾いて説得力ある説明をしたり、奥様が出てきて部分的に歌を歌っている。この手のドキュメンタリー番組では、冒頭で「デイヴィッド・フォスターという人は、こういう人です。」という説明が必ずつくのが王道だが、そういったことが一切なく、いきなり本人の語りであったり、そういうさりげないピアノの演奏だったりというもので番組が進行していくというのが、逆にいい点だったなと思う。

もう1つ、やはりこういう番組はインタビュアーの資質というのが非常に問われるので、そういう意味で

もポール・トゥーグッドさんですか、この方が非常に音楽愛もあって、デイヴィッド・フォスターのことをかなり深く、詳しくご存じでいらっしゃる方だということから、そういうものを引き出せているのだと思った。

個人的に音楽ファンとしての収穫だったのだが、デイヴィッド・フォスターが最後の方で「作曲家と医者とかパイロットとは違うんだ」ということをおっしゃられていて、「作曲というのは、その若さを原動力にした作業なんだ。」というところで、今フォスターがこういった年齢になって、「ヒット曲は作れないかもしれないけれども、ブロードウェイで良い曲を書いていけるっていうところに自分のフィールドが今ある。」という話があったが、その辺りも非常に自分の中で、疑問に思ってたというか、もしかしたらそうなのかと思っていたことに非常に繋がっていて、自分的にはすごく収穫のあった番組だなと思った。

やはりミュージック・エアの専門チャンネル性というのを活かしている局だからこそ、チャンネルだからこそこういう番組が放送できているということだと思うので、「いいコンテンツを自信を持って作っていく。」ということのいい象徴になっているのではないかなと感じた。

◆この番組はソングライターインタビューシリーズということで、この回はソングライターというよりは音楽業界の超有名なプロデューサーであるデイヴィッド・フォスター、彼自身が自分の歴史を自分本人の語りで分かりやすく自ら語ってる番組だった。

とても素晴らしい企画で、通常、歌手やミュージシャン本人のインタビューは結構あるが、プロデューサーというのは裏方的という感じなので、そう多くはないと思う。作品の制作過程とか、あまり語られることがない話が出てきたのがとても興味深かった。

例えばセリーヌ・ディオーンとホイットニー・ヒューストンの音楽的な才能の違いとか、プロデューサーならではの話も聞けて、貴重なインタビューかなと思っている。

また、カナダ出身の彼がアメリカの音楽業界でのし上がっていった過程もたいへん興味深く聞かされた。

この「偉大なるソングライターたちシリーズ」は、全19タイトルをミュージック・エアで放送したということだが、バリー・ギブやカーリー・サイモン、ノエル・ギャラガーなども登場したということで、非常に良いコンテンツだと思うので、今後もミュージック・エアでこういう切り口のきちんとしたインタビュー番組をどんどん紹介してほしいと思う。

<番組供給者からのコメント>

デイヴィッドとデイヴィッドの件は、気を付けて見ていたが、まさかファイルで見落としがあったということとで、今後は注意してやっていきたいと思っている。

デイヴィッド・フォスターにまつわる曲を取り上げた番組というお話もありましたが、ミュージック・エアでは、シカゴのライブの番組をその後に放送したりもしているが、本日いただいたご意見を活かし、今後も引き続きそういった編成をしてみたい。

<質疑応答>

◆質問

50代ということで、1番多い視聴者層だからしかたないが、このままどんどん行くと、若者に対する方針というか、40代、30代というところは、もうギブアップする可能性があるということか？ 今後は少しまた狙っていくという気持ちはあるのか？

◆回答

先ほども説明したとおり、レディー・ガガやブルーノ・マーズもオンエアしましたが、やはり大物で東京ドームクラスで(ライブを)を行っている洋楽のアーティストについては、ミュージック・エアの視聴者層からも反響があり、若い世代からも反響があるので、その辺を軸に広げていきたいと思っている。

◆なるほど、では諦めてるわけではないと。ただ、優良なコンテンツで今の視聴者たちをがっちり掴んで離さないということは大事だと思うので、頑張っていたきたい。



- ・ 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置その年月日：  
今回の審議会に出された意見については、審議会が開かれた令和4年7月6日以降、各番組のプロデューサー、担当者へのフィードバックをはじめ、番組制作会議等で、活用し、さらなる番組の向上のために適切な措置を講じるよう努めていく。
- ・ 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日：  
令和4年8月以降に、ホームページに審議会概要を掲載、公表する予定。

以上